

被災地思いクッキー作り



東日本大震災被災地に贈るクリスマスクッキーを手作りする生徒たち

室蘭・海星学院高生

仮設や復興住宅へ Xマスプレゼント

室蘭・海星学院高校(香川謙二校長、232人)の生徒たちが11、12の両日、同校で東日本大震災被災地の岩手県釜石市の仮設住宅や復興公営住宅で暮らす人たちに贈るクリスマスクッキーを手作りした。

昨年続き2回目。今年7月に現地で傾聴ボランティアなどに取組んだ下司知実さん(2年)ら6人が全校に協力を募り、2日間で約40人が参加した。小麦

粉やバターなど材料は道産にこだわり、星やハート、鳥の形にして焼き上げた。4個入りで400袋分を作り、ラッピングをしてメッセージカードを添えた。クッキー作りのプロジェクトリーダーの下司さんは「北海道の高校生が心を込めて作ったクッキーを喜んでもらえたら」と笑顔を浮かべ、早速発送していた。

(成田真梨子)